

福武文化振興財団

平成18年度 事業計画

福武文化振興財団は、平成18年8月に10周年を迎えます。これを契機に今後も当財団の事業が、広く県民の皆様方のご理解とご支援が得られますよう、事業の在り方について検討し、文化の発展に一層寄与できるような努力する所存です。本年の主な事業は次のとおりです。

- 表彰事業
福武文化賞は、県内の文化向上に著しく貢献した個人・団体に贈ります。福武文化奨励賞は、県内の文化向上に著しい貢献が期待される個人・団体に贈ります。昨年度は、福武文化賞に2件、福武文化奨励賞に5件の個人・団体が受賞されました。

- 助成事業
1 文化活動助成
県内の文化振興と地域の活性化に資するため、伝統的な文化、現代的な文化にかかわる活動や調査研究に対し助成します。昨年度は伝統文化部門18件、現代文化部門46件が助成対象に選ばれました。今年度は助成総額を1200万円から1500万円に増額して行います。
2 指定文化財保全助成
国、県指定重要文化財保全の

ための費用を助成するものです。
3 郷土芸能発表会助成
岡山県郷土芸能振興会が行う「郷土芸能フェスティバル」に助成します。

4 瀬戸内圏域文化振興助成
広く瀬戸内圏域の伝統文化を発掘するとともに、当該圏域の文化を創造・発信する活動を支援するために助成します。
5 特定文化助成
地域の文化振興に特に有益と認められる記念的な文化事業に対して助成します。

6 国民文化祭開催関連事業助成
岡山県文化連盟の事業に助成し、地域の文化力向上をはかるものです。(新規)
7 吉康雄特別展への鑑賞助成
岡山市内の小・中学生等が吉康雄特別展を授業・学校行事として鑑賞するための経費(送迎バス代)を助成します。(新規)

調査研究事業
1 文化団体活動状況調査(新規)
2 国吉康雄の調査・研究
広報・啓発事業
文化発表会や文化講演会、ホームページの開設などを行っています。
10周年記念事業
記念講演の実施や財団設立10年史の発刊、教育・文化合同海外視察団の派遣などを予定しています。(野間)

福武教育振興財団

平成18年度 事業計画

福武教育振興財団は本年8月で20周年を迎えます。平成18年度も引き続き左記の事業を展開いたします。

1 表彰事業
教育研究および教育実践で顕著な業績をあげられた個人や団体を表彰するものです。福武哲彦教育賞は2件、谷口澄夫教育奨励賞は5件を予定しています。

2 助成事業
・教育研究助成は、先生方の教育研究や有意義な実践に対する助成で、総額は1200万円です。
・研究大会助成は研究発表会の費用を助成するもので、随時申請を受け付けています。
・また、昨年度から始まった次の助成事業も継続して実施いたします。

3 調査研究事業
(1) 海外教育事情調査
(2) 県内教育事情調査
(3) 児童英語指導者検定システムの実施
4 広報・啓発事業
(1) 教育・文化講演会
(2) 教育研究発表会
(3) ホームページ
5 報告書等の発刊
(1) 要覧
(2) 教育研究叢書
(3) 海外教育事情調査報告書
(4) 財団機関誌「不易」

1 表彰事業
(1) 福武哲彦教育賞
(2) 谷口澄夫教育奨励賞
2 助成事業
(1) 教育研究助成
(2) 研究大会助成
(3) 個性的教育を推進する地区・校への助成
(4) 英語教育重点地区・校への助成
(5) 英語研修助成
(6) 日中青年交流事業への助成
(7) 平成の遺唐使助成事業(新規)
(8) 特定教育助成
(9) 学力・人間力育成推進事業助成(新規)
(10) その他の助成
3 調査研究事業
(1) 海外教育事情調査
(2) 県内教育事情調査
(3) 児童英語指導者検定システムの実施
4 広報・啓発事業
(1) 教育・文化講演会
(2) 教育研究発表会
(3) ホームページ
5 報告書等の発刊
(1) 要覧
(2) 教育研究叢書
(3) 海外教育事情調査報告書
(4) 財団機関誌「不易」

2 英語教育重点地区校への助成
は、中学校区の小中学校が連携して、または高等学校が「使える英語」を習得するための授業改善への助成を予定しています。

3 1日中青年交流事業への助成
は、県内の高校生を中国へ派遣する岡山県日中教育交流協議会へ派遣費を助成するものです。
4 新規事業として次の助成を開始します。「学力・人間力育成推進事業助成」は、学校の教育力、教師の力量並びに地域の教育力の強化を通じて児童生徒の学力・人間力の豊かな育成を図る研究実践に対して助成します。

3 調査研究事業
毎年実施している海外教育事情調査では、教育委員会などから推薦された県内の先生方約20人が9月末から諸外国の学校を1週間程度訪問し調査します。
4 その他の事業
以上の他にも、研究発表会や講演会の開催および出版物の刊行も予定しています。特に本年度は20周年記念事業として記念講演、記念誌の発刊の他に教育と文化財団合同の海外視察団の派遣なども計画しています。(赤松)

例年になく厳しい寒さと雪害に堪え忍んだ冬季を終え、再び万物の待ち望んだ春が巡って参りました。学校教育現場におかれましては、新年度を迎えられ新入学生の歓声と共に希望に満ちあふれたスタートをきられたことと存じます。
また、ご活躍中の文化関係個人・諸団体の皆様方におかれましては、本年の活動計画など策定なさっておられることと存じます。
◆さて、この「不易」誌と同時に刊行しました「第15回海外教育事情視察報告書」の内容は中国の広州及びベトナムのハノイについて教育事情を詳述しております。教育の原点がそこには見られます。是非ご一読ください。(ご請求は福武教育振興財団まで)
◆本年8月には教育財団創設20周年・文化財団創設10周年をそれぞれ迎えます。
この節目の年にあたり、岡山県内の教育と文化の振興という不易な部分を重視しつつ、従来にも増して設立目的を達成すべく努力して参る所存でございます。

今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
(赤松)

編集後記

◆例年になく厳しい寒さと雪害に堪え忍んだ冬季を終え、再び万物の待ち望んだ春が巡って参りました。学校教育現場におかれましては、新年度を迎えられ新入学生の歓声と共に希望に満ちあふれたスタートをきられたことと存じます。
また、ご活躍中の文化関係個人・諸団体の皆様方におかれましては、本年の活動計画など策定なさっておられることと存じます。
◆さて、この「不易」誌と同時に刊行しました「第15回海外教育事情視察報告書」の内容は中国の広州及びベトナムのハノイについて教育事情を詳述しております。教育の原点がそこには見られます。是非ご一読ください。(ご請求は福武教育振興財団まで)
◆本年8月には教育財団創設20周年・文化財団創設10周年をそれぞれ迎えます。
この節目の年にあたり、岡山県内の教育と文化の振興という不易な部分を重視しつつ、従来にも増して設立目的を達成すべく努力して参る所存でございます。

不易

第24回 教育・文化講演会

講師 日本芸術院会員・岡山大学名誉教授 蛭田 二郎 先生

1月24日、岡山プラザホテルにおいて、第24回教育・文化講演会を開催し、県内各地から約170名の方々の参加がありました。

講師には、岡山大学名誉教授で、昨年11月29日に日本芸術院の新会員になられた彫刻家の蛭田二郎先生をお迎えし、「芸術創造の心について」という演題でご講演をいただきました。

先生は、塑造芸術の特質について取り上げられ、塑造というものを



全盲の子どもがつくった作品の写真について語られている様子

「塑造とは、自分の手のひらを通した身体感覚でつくるもので、頭でつくるものではありません。これは人間の内部感覚によって生まれてくる内触覚性です。作品をつくっていく、形にならず夜も眠れないというふうな思いに駆られ、自然にその形にしてしまおうということが、塑造芸術の特質だと思っています。
また、生まれながらに全盲の子どもがつくった作品にも表われているように、自分が触り、物を掴む感覚で、世界を認識し、自分を認識し、人間を認識し、こうして手探りで生み出されたものが、心のありようであり、認識のあり方でもあると分かります。そういった感覚世界には、外触覚、視触覚として内触覚があり、それがストレートに自分の意識を超えて出てくる

第24号
平成18年4月1日
(財)福武教育振興財団
(財)福武文化振興財団
〒700-0807
岡山市南方3-7-17
TEL.086-221-5254
FAX.086-232-3190
http://www.fukutake.or.jp/
制作 (株)吉備人

彫刻制作の中に精神の自由というものが存在するとすれば、それは無我夢中で何かに集中しているときであり、集中の極みだと思えます。その中に精神の自由は必ずあります。また精神の自由を確保して一つのものをつくり出し、創作

平成18年度 福武教育振興財団 教育研究助成等の募集開始について

① 教育研究助成

左記のような研究や活動について助成します。上限額は、学校園全体の取り組みについては50万円、個人またはグループについては20万円です。

② 研究大会助成

教育内容、方法等の研究成果を発表する研究大会の開催を対象として助成します。上限額は30万円です。

● 対象(応募資格)

①、②ともに岡山県下の学校の先生方等の教育関係者や保護者の方々に対象に助成します。

● 応募方法

「教育研究助成」に応募される方は、学校園または教育委員会等へ配布している所定の申請書に必要事項を記入の上、当財団事務局あてに郵送してください。応募期間は、4月1日から5月8日(必着)までです。「研究大会助成」は、予算の範囲内で随時受け付けします。

申請書はどちらもホームページからダウンロードすることができます。

●「英語教育重点地区・校への助成」及び「個性的教育を推進する地区・校への助成」を今年度も若干数募集します。なお今年度からの新規助成事業として「学力・人間力育成推進事業」も合わせて募集を開始します。これらの申請書につきましては直接、財団事務局にご請求ください。

●詳細については募集要項または当財団のホームページをご参照ください。

● 問い合わせ

福武教育振興財団事務局 赤松まで
福武教育振興財団 HPAアドレス
福武文化振興財団
http://www.fukutake.or.jp/

平成17年度 「福武文化奨励賞」

をいただいて

みどりじかる劇団きんちやい座

座長 河井 兵太

わが「きんちやい座」は創立10年を経過、2隔年の定演を積み重ね、その間地域からの要請にも対応、一昨年度は津山市の「築城400年」のイベントに2時間40分の大作「石の記憶」を演じ、昨年10月末にはその演目で福井県の「国民文化祭」に応募出演の栄を得ました。

「きんちやい座」の強みはなんとといっても脚本・山田氏、作曲・矢内氏、作舞・山岡氏、歌唱・鈴木氏と、創作・演出の一



津山城築城の様子を演じました

津山人が津山話を津山弁で語る、それをミュージカルに仕立てる錬金術師が脚本作家の山田美那子さんです。

随想

「大学の地域連携への道」

美作大学・美作大学短期大学部 学長 目瀬 守男



美作大学の学長に就任してから早くも8年になるうとして、時の流れは速い。この間取り組んできた大学の地域連携を取り上げてみたい。まず、産官学民連携の成果をあげている美作大学技術交流プラザ(美大プラザと略称)である。美大プラザは平成17年7月、26社の企業の加盟で設立された。地産地消を主眼とし、3分科会に分かれて新

との連携により、保育所・幼稚園・小・中学校・福祉施設などへ学生のボランティア派遣を組織的に進める計画である。大学は、本組織を通して学生達に社会性、コミュニケーション能力、勤労意欲、更に企画立案能力など社会に出た時に要求される能力(人間力)の育成の場を与えることになる。たくましく生きる力を持った学生を大学と地域で



(福武文化奨励財団 理事)

平成17年度 教育研究助成を受けて

モコイングリッシュセンター

代表 名合 智子

児童の教育に関しては、何を教えるにしても言えることであるが、特に英語を教える場合は、将来の人間像を見据えた取り組みが必要である。国際人として世界の人々と英語でコミュニケーションが図れる人を育てることである。松香洋子女士の言葉に「子どもは未来からの留学生」があるが、名言であると思う。外国を訪れて思うことは、日本の児童はコミュニケーションを図ることが下手だと危惧する。小学校英語活動が始まって、岡山の児童を国際人に育てたいという強い思いで、コミュニケーション能力を育てることに取り組んできた。



グループで実際に校内を案内しよう

永年の民間での経験によるノウハウと大学院で学んだ理論を伝えるために、ある小学校で出張レッスンを始めた。同時に山陽学園の社会人コースで小学校教師対象の児童英語教授法を担当した。そうこうする内に英語活動に対する認知度も高くなり、いくつかの小学校からの要請があり山陽のコースを終了した民間の仲間とグループを作ったが、予算がなく教材は持ち出しで

としての研修を受けることに使わせていただいた。民間のノウハウや、児童英語教育の理論を伝えることが初年度のポイントとして取り組んだ。2年目は、小学校の初心者の教師が自信を持って教えられるように、レッスンプランのシステム化と40レッスンプランをまとめて、いろいろな場で紹介した。3年目は、フオーアアップの意味も兼ねて、教師がいつでも好きなきときに

教育特別講演会開催

演題 みどりある教育に向けて

一学校地域で「確かな学力」を育てる

講師 東京大学 大学院教授・文学博士 市川 伸一 先生

財団法人福武教育振興財団と福武文化奨励財団は、昨年12月26日にホテルグランヴィア岡山にて教育特別講演会を開催いたしました。当日は県内各地より教育関係者を中心として約四百名もの参加があり、会場内は寒さを吹き飛ばすほどの熱気に包まれ、現在の学校教育に対する関心の高さがうかがわれました。この講演会にいたる経緯として当財団は、何度も東京大学の市川研究室に足を運び、先生の提唱なさっている「学力向上策にスキルを育てる」学力向上策に



この結果、当財団としても提唱されているお考えに大いに共鳴し、先生のお考えを岡山県教育界においても知っていただきたいとの思いからこの講演会を企画いたしました。実際の講演ではプレゼンテーションとされながら、現在の教育の抱えている問題をわかりやすく話され、人間力という新しい概念についても触れられました。ご講演の後には活発な質疑応答もあり、大変有意義な講演会となりました。なお、当財団におきましては平成18年度の教育助成の中に新たに「学力・人間力育成推進事業助成」をもうける予定です。詳細は(財)福武教育振興財団までお問い合わせください。(赤松)